







日滝小学校 創立150周年

日滝小学校は今年度、創立百五十周年を迎えました。この節目の年にあたり、本校の歴史、現在の教育活動、百五十周年記念事業について紹介いたします。



「徳潤身」と刻まれた石碑

「潤身学校」の名は、中国の古典四書の一つ「大学」に由来します。「富潤屋 徳潤身 心廣體胖 故君子必誠其意」豊かな家はその家を立派にするように、徳を修めれば、自然にその人の身も立派になり、心は広々と広く、身体はいつもゆったりする。心の中のもの、外に現れるものであるから、人は誠実に徳を修めべきであるという意味です。学

現在の日滝小学校は、学級数十四、児童三百三十五名、職員三十一名です。「いきいきと みんなで創る 日滝小学校」を学校目標に、確かな学力、健康で丈夫な体、豊かな心を育むことを目指しています。自然溢れる学校には、春は校庭に桜、中庭には白いハナミズキが咲き、続いてバラ、タイサンボクの花が香ります。夏には、敷地内にある「潤身の森」と名付けた小さな林で、カブトムシ



150周年記念花火



サイエンスショー

やクワガタも捕ることが出来ます。子どもたちは、その中で、明るく自然や友とふれあい過ごしています。今年度は生活科・総合的な学習を重点研究に据え、自分の思いを仲間と共に考え学び合い協働して実現していく力をつけていくことを大切に考えています。百五十周年イベントを計画したり、蚕を飼ったり、自分達の育てた野菜でピザを作ったり、地域の皆様にお力を貸していただいたり交流したりしながら、学習を進めています。毎年行なっている地域学習の「子どもやしや」でも、地域の方に日滝の歴史や文化を伝えていただき、子どもたちが「ふるさと日滝」を知る活動となっています。

百五十周年記念事業については、昨年よりPTAや学校運営委員の方々が準備委員会を組織していただき、「子ども達の心に残る記念事業」をテーマに様々な事業を計画していただきました。五月十三日には、コロナ禍でも地域の皆様に感謝の気持ちを伝えたいという思いから、「百五十周年記念花火」を行いました。実行委員の皆様が、花火打ち上げの許可を取ったり、ご近所にご挨拶していただき許可を取り、実現することができました。約二百五十発の花火が上がると、子どもや保護者はもちろん、地域の皆様にも喜んでいただきました。百五十周年記念運動会では、「校歌ダンス」を地域の方々と一緒に、百五十周年記念音楽会では、昭和二十八年に制定され、平成二年まで歌われてきた「旧校歌」を合唱しました。サイエンスショーや航空写真も行い、記念リーフレットや記念品の作成も予定しています。

日滝小学校は、百五十周年の伝統と誇りを胸に、これからも子どもたちの夢と希望を育む学校でありたいと思います。また、日滝地域の皆様の心の拠り所となりますよう、児童・教職員共々決意新たに、いきいきと明るい日滝小学校を創っていききたいと思っております。(武居敦子)



豊丘小学校 創立150周年

豊丘小学校は本年、開校百五十周年を迎えました。初めに現在に至るまでの歴史を沿革誌等から紹介いたします。明治五年教育令の発布により、同年八月学校を足したのが始まりです。翌年には小山村止善学校の支校が灰野村の地藏堂建物を利用して開校しました。この際に建てられた校舎が明治十年に焼失したため、新校舎を作り、競進学校として新たに開校しました。明治十五年には上高井郡園里村立園里学校と改名しています。その後、大正二年に地藏堂(現在の地域公民館)横に、今も当時の面影を伝える園里小学校が建てられました。その場所が手狭になったこともあり、昭和四年に現在地に校舎が建てられました。昭和十九年豊丘村が解体、仁礼村と合併し東村と改称したことにより、東部小学校と改称します。九十年には、現在も歌われている校歌が制定。昭和四十六年、東村が発展解消し、須坂市へ合併したため、豊丘地区は須坂市大字豊丘となり、東部小学校の校名を豊丘小学校に改め、帽章(校章)も現在のものにデザインを変えています。昭和五十九年には校舎改築が行われ、現在の校舎が完成しました。この年に校舎改築記念として建てられた「あやの像」は今も、豊丘の子もたちを見守っています。

このような古い歴史を持つ豊丘小学校、そして豊丘地区を知ろうと、豊丘小学校では総合的な学習の時間を三、六年生の二つの縦割り班で取り組むことにしました。「さぐる」チームは豊丘地区の歴史や魅力を調べ、「つくる」チームはソルガムや米などを栽培する学習を進めています。

「さぐる」チームは、地域の自然を探索したり、地区内の企業や農園を訪ねてお話を聞いたりしています。その一環で、百五十周年を記念して旧園里学校で授業を行いました。旧園里学校を管理する地元住民有志の団体「豊丘地域づくり推進委員会」の方々に協力していただき、郷土食の体験や地域の成り立ちや、昔の暮らしについて学びました。一階の土間展



旧園里学校での授業



地域の音楽グループとの共演



ミニサッカー

室で囲炉裏を囲み、農業小学校豊丘校の農家先生が作ってくれた「ぶちこみ」や「おやき」を食べながら、明治から昭和初期の食生活について学習をしました。二階にある明治時代の学校を再現した教室では、市内の小中学校で使われていた足踏みオルガンの演奏で、子どもたちが校歌などを歌いました。数々の体験を通して、昔と現在の生活の違いを実感する貴重な学びとなりました。

他にも百五十周年記念事業として、様々な取り組みを行って来ました。運動会では、平成二年に三十九年ぶりに復活し、最近ではコロナ禍のため実現しなかった「豊丘音頭」を、百五十周年の今年には保護者や地域の方と児童が一緒に踊りました。音楽会では、同じくコロナ禍で途絶えていた地域の音楽グループ「四季を歌う音楽教室」の方々とPTAコーラスの共演が実現し、百五十周年記念ステージでは、クラブ講師や職員有志による演奏が披露されました。

そして十月二十七日には、記念式典が行われました。記念講演では、仁礼地区出身でサガン鳥所所属のサガン・リレーションズ・オフィサー、元プロサッカー選手の高橋希氏をお招きしてお話をお聴きしました。講演後にはミニサッカーをして全校児童と交流を行いました。プロの技に触れることができた子どもたちは大変喜んでいました。そんな子どもたちの様子を映している地域の方々も笑顔が溢れる良い記念式典になりました。

他にも全校児童と保護者の皆さんで人文字写真を撮影したり、中庭の花壇に「150」のデザインをして花を植えたりと、百五十周年という節目に立ち会えることができた喜びを全校児童で味わうことができました。その喜びを基に、あらためて学校や地域を見つめ、未来を創る力を伸ばして欲しいです。(酒井崇臣)



小山小学校 創立150周年



小山小学校のシンボル樹の木

歌詞にも登場する樹の木。本校のシンボルの存在で、明治十四年に旧校門近くに植樹された古木です。今年もたくさん木が練習して

子どもたちの歌声が今日もきこえています。今年度の児童会が作詞した百五十周年の歌です。十一月十五日に行われる百五十周年記念式典に向けて毎日子どもたちが練習して

「どちのつき」を決定しました。六年生作品です。植樹以来、一つの時代も子どもたちと卒業された方の心ともある樹の木です。では、百五十周年の歌の歌詞にある「こやましようの たんじょうび」は、いつなのでしょうか。小山小学校の誕生日は、明治六年十二月十二日です。明治六年に「止善学校」の名で、南原町の円光寺に生まれました。豊丘には止善学校支校をつくりました。地域には子どもが三百五十人いましたが、学校に来たのは百十三人でした。その後、学校は小山町の昌福寺に移り、明治



井上小学校 創立150周年

井上小学校は、本年度百五十周年を迎えました。百五十周年をみんなで祝おうと、四月からさまざまな記念事業が行われています。六月には全校児童から集めた百五十周年のイメージカラー「オーブニングセレモニー」

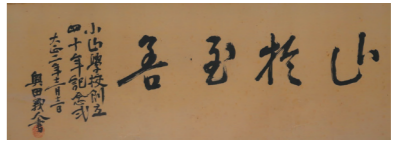
五月十九日、児童会が中心となって行なわれ、全校児童に今年のお祝い年であることが伝えられ、みんなで「ジャンボリーミッキー」を踊ったり、井上小学校が大事にしたいものが書かれたカードを、校舎内のいろいろな場所から、「なかよし学級」のペアで見つけたりしました。

五月二十七日の体育発表会では、なかよし学級のペア同士で記念の旗を作り、その旗を掲げて入場行進をしました。この時作られた旗の全てを六年生がミンでつなぎ、大きな一枚の旗になって、現在掲示されています。



昭和10年の運動会プログラム

この体育発表会の折に、昭和十年の運動会プログラムの紹介をしました。昭和十年の運動会での、五十一という種目数の多さ(番外を入ると五十四



『止於至善』

十一年に校舎を現在の北原地籍に建て、学校名が小山学校、須坂学校小山支校と変わっていきま

「止於至善」と書かれた額があり、創立四十周年記念(大正二年)の作品で、「至(し)善(ぜん)に止(とど)まる」にあり、と読みます。学校では育つ、みんなが育ちあう、良いところをどんどん伸ばしていこうという思いを、百五十周年経った今でも大切にしていきたいと思

百五十周年目の「こやましようの たんじょうび」を迎えるにあたって、これまで小山小学校に関わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。今日一日が新たな小山小の歴史の一歩になっていくことを自覚しながら、これから子どもたちとともに歩んでいきます。(清水あかね)

種目」に驚きました。「綱引き」「紅白リレー」など今に続いている種目があるかと思うと「早仕度競争」「借り物競走」など、楽しそうな種目もあり、興味深いです。

十月二十七日に行われた音楽発表会では、全校児童で決めたスローガン「気持ちを高めてみんなの音色を合わせよう150周年を盛り上げよう！」のもと行い、歌詞を工夫したり、呼びかけをしたり、かけ声をかけたりするなどさまざまな場面面で百五十周年をお祝いするメッセージが込められていました。

十一月二十四日にバイオリンリストの飯島千鶴様をお迎えして記念演奏会が行われました。井上小学校の歴史の中でも関わりの深い(株)オリオン機械の社長様にご紹介いただいた方です。井上小学校が、明治五年学制発布の翌年(明治六年 一八七三年)から百五十回も入学式と卒業式が延々と続いていくことの素晴らしいことに感動し、その思いを演奏を通して伝えていただきました。クロージングセレモニーでは、児童たちが一年間の記念事業を振り返り、母校への思いを語り合いました。子どもたちが、百五十周年目の本校に在籍していたことに誇りをもつとともに、井上小学校が、井上地域にある伝統校として、地域の皆様とともに十年、二十年、さらには五十年、百年と新たな歴史を刻み、ひとつひとつ年輪を重ねていくことができればと願っています。(長田みゆき)



記念音楽発表会



記念井上フェスティバル